

集落支援だより

No.7



しまった!
どうしよう・・・

問い合わせ

岩国市中山間地域振興室

集落支援員 金丸 恵子

R6年2月3-4日に柱島・端島で岩国猟友会16人、猟犬5頭によるイノシシ捕獲が行われました。

コロナ禍で外部から人が入るのを制限していたため、その間イノシシが増え続けて、畑の作物ばかりでなく、道路や畑の石垣を崩して、通行が妨げられ、法面が崩壊するなど様々な被害が発生しました。

作業中や通行中にイノシシに遭遇することもあるので、大きな人的被害が起きないうちにと今回の捕獲作戦となりました。

前日雨が降った為、猟犬の嗅覚が存分に発揮できない中でも、数頭のイノシシを捕獲することができました。



R6年1月23日、黒島・端島で期日前投票が行われました。

選挙管理委員会の方とご一緒し、まだ一度もお話を伺っていない方と投票所待合や消防庫で話を聞きました。

帰りは風が強く、波が高くなり定期船「すいせい」は運行中止となりました。

自分たちは、チャーター船で渡航していたので、何とか帰りました。通常1時間足らずのところを船長さんが波をよけながら1時間半かけての到着となりました。港を出ると「ふわ」と浮いては船底に叩きつけられ、船酔いレベルの問題ではありませんでした。船の軋む音に怯えて、「船頭さんはベテラン!ここは瀬戸内海だから大丈夫」と自分に言い聞かせながら、まさに生まれて初めての経験でした。島の方々はこういう経験をいや、もっと荒れた海を何度も経験されているのでしょうかね!

パネル展 開催

期間：R6年3月1日（金）～14日（木）

場所：岩国市役所

集落支援事業

【岩国市柱島群島】

事業の概要

- 令和元年5月より岩国市柱島群島（柱島・端島・黒島）に集落支援員を派遣する。
- 柱島・端島の獣害の深刻さから、県の専門家に調査依頼し、被害防止対策の講座を開催する。
- 3島における環境美化を目的とした支援活動。
- 地域の情報誌である「集落支援だより」を発行（不定期）し地域住民に配布、岩国市HPに掲載している。

事例の内容

事業内容

- 令和元年5月から実施された柱島群島での集落点検から約5年が経過、島の人口・世帯数の減少によって生じた、新たな問題や課題を抽出するため、柱島・端島・黒島の各集落を再調査実施中。
- 獣害防止対策では、ビデオ・解説・電気柵等様々な角度からアドバイスを受けた。
- 島の海浜清掃・海底清掃・農道整備・草刈りなどの環境美化作業。



事業の効果

- 戸別訪問により、住民一人ひとりの顔が見えてくる中で、信頼関係が構築され、その後の生活環境での困りごとや自治機能についても話がスムーズに進められてきた。
- 獣害防止対策では地域ぐるみ、周囲との連携の重要性を認識させられた。
- 清掃作業等のイベントに参加することによって、島出身者と島とのつながりが強固になり、島に帰る回数が増え、島外から参加するボランティアの方も増えてきた。



元気創出！ どこでもトークin柱島

R5年9月2日



村岡知事、福田市長をお迎えして、14年ぶりとなる「元気創出！ どこでもトークin柱島」が開催されました。港には大漁旗がはためき、多くの島民の方々があお出迎えました。

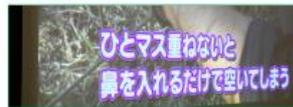
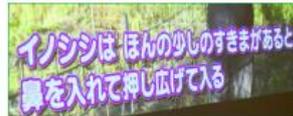


ひさき天日干し場、視察



イノシシ被害の防止対策を考える ～地域ではじめる獣害対策～ in柱島

R5年9月22日



イノシシの獣害被害を防ぐには、イノシシの行動や習性を知ることが大切で、人との生息域を明確に分けることも重要です。被害対策は地域ぐるみ、隣人との連携が成功のポイントです。頼りになるようなものを畑に放置しませんが、生ごみも適切に処理するようにとアドバイスを受けました。



柱島、端島にはイノシシが多数生息しており、その被害は農作物ばかりか、石垣を破壊し、道路交通の妨げにもなっています。中山間振興室では、「山口県鳥獣被害対策アドバイザー」松本哲郎氏を招き、イノシシ被害の防止と対策を考える講習会を柱島供用会館で開催しました。

ご説明中

黒島のアキニレの古木

左右に大きく張り出した大枝、いかつい幹、ハリポッターに登場した、枝をぶん回してハリー達をなぎ倒した「暴れ柳」を彷彿とさせます。

アキニレは本土側ではあまり見かけませんが、柱島群島では、よく見かける樹木です。薪炭材として以前植えられたものが、生育に適していたため広がったのか、元々生育していたのか、両方かもしれません。

ごつい幹のわりには可愛い小ぶりの葉っぱを付けます。秋に花が咲くのでアキニレ、春に花が咲くのはハルニレ。ハルニレは本州北部や北海道と寒い地域に生息しています。見比べられないのが残念ですね。

